

8. なぜ里山を手入れするの？

○ねらい：なぜ、昔から人々は里山の手入れをしてきたのでしょうか。
里山の林は、放っておくとどうなってしまうのでしょうか。
昔から行われてきた里山の手入れ作業を学びながら、その意味を考えてみましょう。

●対象地：柏木公園・弥富公園南側樹林地ほか

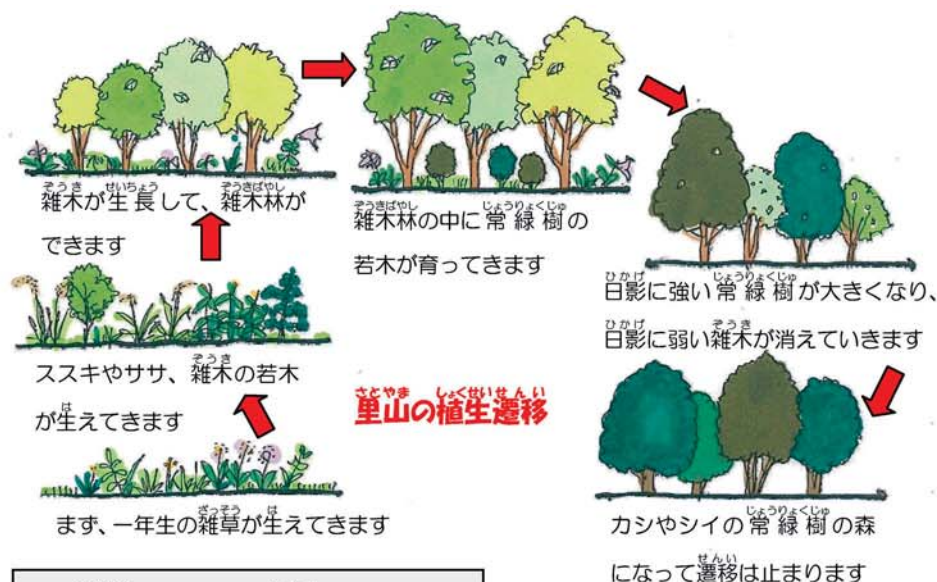
ほうっておけばなくなってしまう里山

里山の林は、多くの種類の木で成り立っています。中でも、アベマキやコナラなどは薪や炭、シイタケのホダ木に利用するために、一定の太さになると伐採していました。また、不要な木々が増えて混み合ってきたら伐り開くなどの手入れをしていました。これらの作業で、林の中は地面まで日光が届くようになり、切株から萌芽更新（※）がおき、地面で眠っていた様々な種類の種が芽を出してきます。こうして、林が若返り、多くの種類の生きものがすみ環境が維持されてきました。でも、里山の利用や手入れは、昭和35年（1960）頃を境に、なくなりました。その結果、里山はどうなっていくのでしょうか。また、どうして手入れをしなくなってしまったのでしょうか。

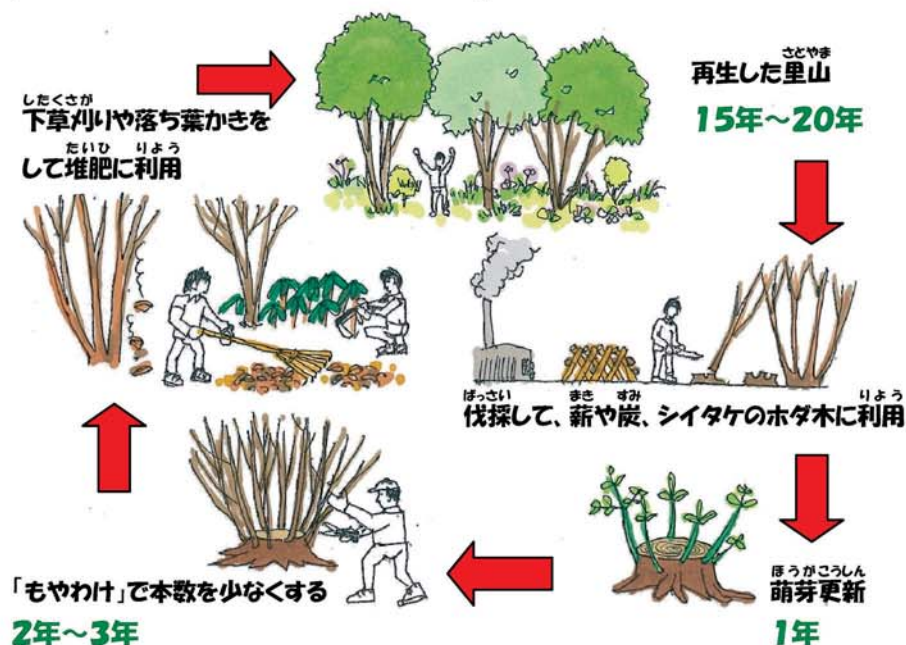
「植生遷移」とは

ある場所に生育している植物全体のことを植生といいます。
この植生が、草地から雑木林へ、そしてやがて常緑の照葉樹林へと、自然に移り変わっていくことを「植生の自然遷移」といいます。自然の林は、このようにゆっくりと常緑樹の林へと変化を続けていくのです。

※萌芽更新：木を伐ったあとの切株から新しい芽が出てくること。



里山の手入れと利用サイクル



里山の手入れのいろいろ



下草刈り

切り株から出た芽の成長をじゃまする草木やササを刈り取ります。
残したい若木や草花は残しておきます。



もやかき

切り株からは、たくさんの芽が出ます。
大きく育てる太い幹を選んで残し、他は切りそろえます。



若返りのための伐採

25年くらいたった雑木林を若返らせるために、ある程度の広さをまとめて伐採します。
明るくなった林では、また新しい芽吹きや、切り株からの萌芽更新が始まります。

シイタケの ホダ木

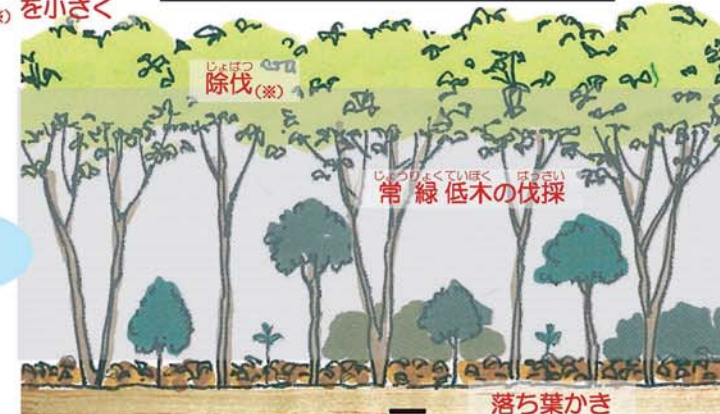


落ち葉かき

地面でねむるタネの芽吹きや成長を助けるために、落ち葉をかき取ります。
集めた落ち葉で腐葉土を作り畑の肥料に使います。ここはまた、カブトムシなどが卵を産む場所にもなります。

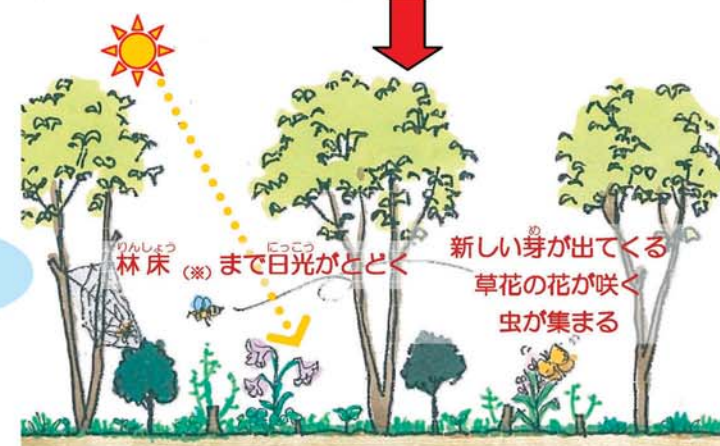
手入れされた里山の自然

樹冠(※)を小さく



手入れ前

落ち葉かき



手入れ後

里山の手入れをした次の春に、切株から芽が出てくるかな？
地面からどんな植物が芽を出してくるかな？
また明るい里山と、ほうっておかれた暗い里山の違いを、生きものの種類で観察してみるのもおもしろいでしょう。

※樹冠：木を形づくっている枝や葉が茂っている部分のこと。

※除伐：樹生長の悪い木、他の木の生長を妨げている木などを選んで伐ること。

※林床：樹林地の中の地面のこと。